

## 『新しい中世』を読む

講師を迎え、各会員が国際政治やその他の分野への知見を深めていく際に、その講師の考えや主張を正確に理解するのは必要不可欠である。誤った理解やあいまいな認識のままに講師との対談に臨もうとする者に、講師の考えを用いて自分の意見を言う資格も、講師の意見を批判する資格もありはしない。

発表者は『新しい中世』の5・6章の要約を通じ、以下で各会員の上記文献の正確な理解と論旨整理に貢献したい。

### 第5章 相互依存が進む世界 (p132～)

冷戦終結と覇権衰退以外で、今後の世界システムを特徴づける要因＝「相互依存」

(相互依存 ≡ 相互作用 ≠ 相互信頼、相互扶助)

#### 1. 相互依存の指標 — 敏感性と脆弱性 — (p.133)

相互依存を判断するための基準

##### ① 敏感性

一定時間のある変化が他の部分をどの程度変化させるか

##### ② 脆弱性

主体が重要と考えるものに起こった変化を自ら許容範囲に修正できるかどうか

①

単位時間の変化 大 小

←→

敏感性 大 小

(相互依存性)

②

修正 不可 可

←→

脆弱性 大 小

(相互依存性)

☆注目すべき相互依存関係

(i) 国家間の関係

(ii) 国家と非国家主体、そのネットワークの関係

☆ どのように相互依存が変化してきたのか

- ・ 軍事的側面
- ・ 経済的側面

## 2. 国家間の2つの相互依存 (p137)

- ・ 軍事技術の発展 → 軍事的に相互脆弱な関係
- ・ 移動手段、通信技術の発展
  - 経済的な敏感性は大きくなり「同一性」に  
Ex、為替変動において国の区別がなくなる
- 経済的な脆弱性も高まる (軍事力による修正が困難に)

## 3. 国家と非国家主体の相互依存 (p149)

非国家主体 = 国家でない行動主体

Ex、個人、町内会、環境保護団体、企業、エスニック集団、テロリスト集団、国際組織

- ・ 移動・通信技術の発展・普及 → 非国家主体が結ぶ国境を超えた関係性
  - 非国家主体における経済的相互依存の深まり  
Ex 企業の投資によって自国の発展が左右される、情報伝達の速度向上
- ・ 武器製造技術の向上 → 非国家主体によって国家はさらに脆弱に

☆ 国家という枠組みの相対化 (=非国家主体の国境を越えた動きの活発化)

Ex 巨大企業の発展、非国家主体の武装集団、非国家主体間からなる多様なネットワーク

## 第6章 制度化する相互依存 (p162~)

- ・ 相互依存により何がもたらされるか (平和や繁栄なのか、紛争なのか)
  - ・ 相互依存状況における紛争管理手段は何か

### 1. 相互依存の理論 (p163)

$\alpha$  : 経済的相互依存は平和を促進する

- ・ 経済的相互依存をなす社会 (商売が相互利益で結合した社会) では、戦争に勝利しても自分が得ていた富も消えてしまい、手段として武力を用いることができない。

$\beta$  : 経済的相互依存は平和を促進しない、または紛争を起こしやすくする

- ・ 密接なつながりによって接触しあい、紛争が起きる。
- ・ パレート最適を過ぎると利益の奪い合い状態となる。

<パレート最適 = どちらにも最大利益が得られる状況>

$\alpha$ 、 $\beta$ の矛盾をどう考えるのか

相互依存と紛争および戦争の関係（戦争と紛争を区別）

- ① 相互依存は必ずしも共同利益を最適化しない（Ex 鹿狩り）…経済的問題
- ② 相互依存は紛争を頻発させる傾向がある …軍事的問題（ $\leftarrow \beta$ ）
- ③ 経済的相互依存とりわけ脆弱な関係は、紛争が戦争に至るのを防ぐ傾向がある。
- ④ とりわけ軍事的相互脆弱関係は、紛争が戦争に至るのを防ぐ傾向がある（ $\leftarrow \alpha$ ）

∴ 相互依存関係においては①、②の関係を解決する必要がある。

解決手段＝相互依存の管理の制度化

2. 相互依存の管理 — 国際レジーム (p. 174)

☆ 相互依存の管理 = 相互依存の利益維持 + 不利益（紛争）の最小化

→ 国際組織、国際レジーム

- = ・各主体間のコミュニケーションを助け
- ・約束に何がしかの拘束力を持たせ
- ・紛争を秩序だって解決するルールや組織

(a) 軍事的な相互依存を管理するレジーム

・ 国連

集団安全保障と五大国の協調

平和維持活動＝停戦の継続的な取り決めのため、委員を派遣

・ 冷戦期における核管理レジーム

米ソ間レジーム：SALT条約、ABM条約、INF撤廃条約、START条約

多国間レジーム：部分的核実験禁止条約、NPTなどの核不拡散条約を

中心とするレジーム

\* ただし、これらの全てがうまく機能したわけではない。

(b) 経済的相互依存を管理するレジーム

・ IMF … 各国の通貨の安定（後に途上国の経済危機への対応）

・ 世界銀行などを中心とする援助のレジーム … 発展途上国への援助

・ GATT、WTO … 貿易管理、自由貿易を維・促進、WTOは紛争処理機能を強化

・ 東京ラウンド・ウルグアイラウンド … 自由貿易形成・維持レジーム

☆ 20世紀の世界システムは冷戦終結・アメリカの覇権衰退にもかかわらず、  
国際レジームが多数依存。＝ 相互依存の管理は管理の多元性に特徴がある。(p 193)

☆ NPT、WTO などから見ると、敵の存在やレジームの慣性よりも合理的な理由によって  
レジームが存在していると思われる。(p 194)

**【参考文献】**

田中 明彦『新しい「中世」』日本経済新聞社（日経ビジネス人文庫） 2003年